

ScreenFectTMA トランスフェクション プロトコール

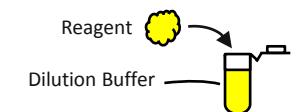
細胞によってDNA/siRNAとトランスフェクション試薬の最適な混合比が異なります。数パターンの混合比を検討のうえ、最適な混合比の検証を推奨いたします。

1-Step法 (リバーストランスフェクション法)

時間

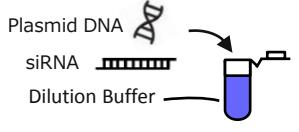
実験工程

1



Dilution BufferにScreenFectTMA Reagent^{※1}を添加する。
十分に混合する。
※1 添加前にボルテックスミキサーで十分混合する。

2



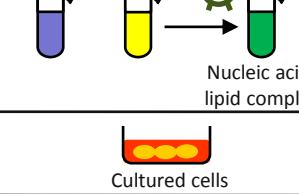
Dilution BufferにNucleic acid (DNA, siRNA)を添加する。
十分に混合する。

3

希釈済みScreenFectTMA Reagent と希釈済みNucleic acid溶液を混合する。
5分間以上室温でインキュベートする。
※③以下の細胞懸濁液の調製とウェルプレートへの播きこみが完了するまでインキュベート可

4

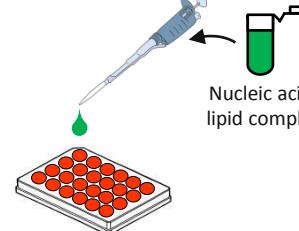
Day 0 トランスフェクションに必要な細胞を用意する。



トリプシンやAccutase[®]をもちいて細胞を剥離し、細胞懸濁液を調製する。
ウェルプレートや培養シャーレに必要細胞数播く。

5

工程 2 で調製したNucleic acid-lipid complexを上記工程で細胞懸濁液を添加した培養プレートに添加する。



6

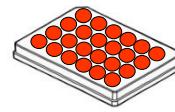
Day 1～ 蛍光観察、フローサイトメトリーなど各種手法によりトランスフェクション細胞を解析する。

2-Step法 (フォワードトランスフェクション法)

時間

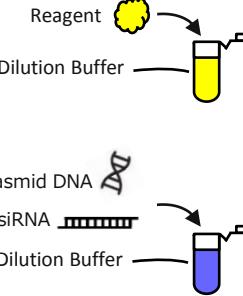
実験工程

1 Day 0



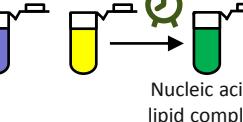
トランスフェクション前に、細胞を70-90 % コンフルエントまで培養する。

2



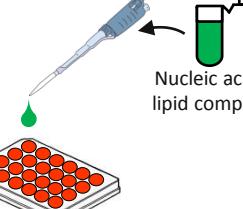
Dilution BufferにScreenFectTMA Reagent^{※1}を添加する。
十分に混合する。
※1 添加前にボルテックスミキサーで十分混合する。

3 Day 1



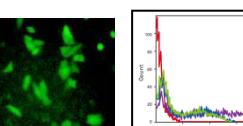
Dilution BufferにNucleic acid(DNA, siRNA)を添加する。
十分に混合する。

4



希釈済みScreenFectTMA Reagent と希釈済みNucleic acid溶液を混合する。
5分間以上室温でインキュベート^{※2}する。
※2 推奨時間：15～20分

5 Day 2～



Nucleic acid-lipid complexを前培養細胞のウェルに添加する。

蛍光観察、フローサイトメトリーなど各種手法によりトランスフェクション細胞を解析する。